

総務企画委員会行政視察報告書

報告者名	委員長 埤田 英伸
視察日	① 令和7年4月15日（火）～②令和7年4月16日（水）
視察場所	① 香川県高松市 / ② 兵庫県神戸市
参加者	埤田 英伸、谷上 昇、森 久往、スプル・デルフィン、阿部 博、 遠藤 隆志、小林 昌子、関戸 繁樹 (随行者：事務局 川崎 由美、北山 透也)
視察項目	① 協定福祉避難所について ② 学校跡地の利活用について

所 感

① 4月15日（火）香川県高松市 ～協定福祉避難所について～

●高松市の概要

高松市は、香川県の県庁所在地であり、人口は約41万人、面積は約375km²である。また、四国各地への交通アクセスにも優れており、四国観光の拠点となる場所である。東西約23km、南北約36kmの中に、海、島、まち、山がぎゅっと詰まっており、見どころがたくさんあるといえる。特に中心部は、アートやショッピングが楽しめるなど、コンパクトに何でも揃っている。ターミナル駅であるJR高松駅のすぐ近くには、瀬戸内海の各島にアクセスできる海の玄関口、高松港があり、市内中心部から気軽に島旅に出かけることができるのも大きな特徴である。また、市内中心部から車で30分程の場所にある高松空港は、ソウル・上海・台北・香港と直行便で結ばれており、四国の玄関口として国内だけではなく、海外からも多くの観光客が訪れている。

●視察内容

〈協定福祉避難所について〉

風水害が予想される場合や大規模地震発生直後の避難については、まず指定避難所へ避難し、避難所での生活ができる限り支障のないように、要配慮者が介護等を受けることができるなど、指定避難所には一定の配慮がなされた福祉エリアが一時的に確保されている。

指定避難所には、主に市有の小学校・中学校、コミュニティセンターなどが指定されているが、指定福祉避難所には福祉エリア以外で要配慮者向けに開設する市有施設の福祉避難所が指定されており、これは受入対象者を特定し、小・中学校等の指定避難所が開設された場合において開設するものである。指定福祉避難所は開設後に直接避難することができるが、協定福祉避難所は、災害時に必要に応じて開設される避難所であり、最初から避難所として利用することはできない。

まず、指定避難所へ避難し、指定避難所の福祉エリアでの生活が困難である場合には、災害時に要配慮者を受け入れることについての協定を締結している社会福祉施設等に対し、協定福祉避難所の開設を要請する。



●所管と展望

協定福祉避難所は、老人福祉施設協会自体が協定を結んでいることで、市内の特別養護老人ホームや老人保健施設をはじめ、ほとんどの福祉施設が登録されている。

いざ大災害が起きた時、障がい者や要介護者・要支援者等が通常の避難所では対応できないという予測はついており、その事態に事前に備えている形に感銘を受けた。

未だ実際に開設された事例は1例しかないようだが、その災害時も協定施設が役に立ったということを確認することができた。

本市としてもそのような協定を早急に結び、避難受け入れ体制の整備に尽力すべきと考える。



②4月16日（水）兵庫県神戸市 ～学校跡地の利活用について～

●神戸市の概要

神戸市は、兵庫県の南東部に位置する市であり、兵庫県の県庁所在地及び人口が最多の市で、政令指定都市である。市域は垂水区・須磨区・長田区・兵庫区・中央区・灘区・東灘区・北区・西区の9区から構成されている。

2020年国勢調査によると人口は152万5,152人であり、近畿地方（関西）では大阪市に次ぐ第2位である。大阪市や京都市と共に、京阪神大都市圏（近畿大都市圏）における中心都市であり、また、神戸市独自で神戸都市圏を形成している。

大阪市から約30km程度しか離れておらず、大阪都市圏から連続する市街地（コナベーション）を有することから、阪神都市圏と称されることもある。海と山の迫る東西に細長い市街地を持ち、十分な水深のある扇状の入り江部に発展した理想的な港湾である神戸港を有する日本を代表する港町・港湾都市である。

大正から戦後の高度経済成長期にかけて、東京市・横浜市・名古屋市・京都市・大阪市と共に六大都市の一角として栄え、幕末の開港以来、横浜港を擁する横浜市とともに舶来品や西洋文化の流入する日本の玄関口となり、今なお旧居留地（神戸外国人居留地）や北野異人館街などの西洋風の街並みに、その歴史や影響を見ることができる。

1995年の阪神・淡路大震災によって神戸港を含めて市内の経済機能は壊滅的被害を受けたものの、神戸市は今なお全国有数の経済都市としての地位を維持している。また、阪神工業地帯に属する工業都市としての側面もあり、臨海部における貿易・造船・鉄鋼・機械・製造・ゴム・真珠加工・観光などの産業を中心に発展し、ファッション・パン・洋菓子・日本酒などの産業も盛んである。観光地としては、中華街の南京町、神戸外国人居留地や北野異人館街などの異国情緒な街並み、神戸ハーバーランド、摩耶山掬星台からの夜景、有馬温泉などが挙げられ、ユネスコのデザイン都市にも認定されている。

●視察内容

〈学校跡地の利活用について〉

☆旧・湊山小学校跡地利用の成功例

2015年に廃校となった湊山小学校の跡地にできるNATURE STUDIOは、自然とともに暮らし、つながりの可能性を楽しむためのハブとなる、コミュニティ型の複合施設である。

NATURE STUDIOには、自然と暮らす地域をつくるために、「学ぶ」・「食べる」・「暮らす」といった役割を担う、店舗や施設、人が集まっている。

具体的には元プールの水族館や、数店舗のフードショップが入っており、令和8年には医療モールや保育施設を完備して若年世代の地域定住をめざしている。

☆旧・北野小学校跡地利用の成功例

神戸北野ノスタは旧北野小学校跡地に新規オープンした神戸グルメが楽しめるシンボリックな複合施設となっている。

「ONE TABLE」のコンセプトのもと、個性豊かなさまざまな業態のショップがオープンしており、フラッと立ち寄る日常利用の地元の方から、神戸北野観光の玄関口として国内外から訪れる観光の方まで「一つの大きなテーブルを囲むように一緒に楽しんでほしい」という願いを込めて、戸の最大の魅力の一つ“食”をテーマを発信する複合施設を構築している。

また、地元民からの強い要望で「思い出のある校舎をそのまま活用してほしい」という内容を組み込んだ設計になっており、地域・行政・民間・来訪客全ての人が満足できる活用事例となっている。



●所管と展望

本市としても横山小学校・池上小学校・幸小学校などの跡地利用の課題に直面しており、今回の神戸市の取組みは、本市にとっても大いに参考になった。



議場見学もさせていただきました。